

小学館教育ビデオ

イタリア

レッジョ・エミリア市の挑戦

—子どもの輝く創造力を育てる—



東京大学大学院教授 **佐藤 学**



解説 創造性の共同体

—レッジョ・エミリアの教育—

創造性の教育は、すべての子どもが潜在的に抱えている可能性であり権利である。しかし、創造性の教育が何によって実現し、何によって支えられるのかを示す事例に出会うことは稀である。レッジョ・エミリアの幼児教育の指導者ローリス・マラグッツィが指摘したように、私たちは「子どもたちの100の言葉」を細やかに受止めることから出発しなければならない。

このビデオは、北イタリアの小都市レッジョ・エミリアにおいて三〇年以上にわたって探求されてきた幼児教育の記録である。私が「レッジョ・アプローチ」を初めて知ったのは十二年前、出張先のボストンで「子どもたちの100の言葉」展を観察したときのことである。その衝撃と「未来の教育がここに準備されている」という確信は、決して間違っていない。その後、レッジョ・エミリアの幼児教育は「世界で最も革新的な」教育として、世界中の教育者の絶賛を獲得している。

レッジョ・エミリアの幼児教育は、「創造性」と「共同性」の実践哲学を基盤に構成されているが、この二つの概念で要約することはできない。レッジョ・エミリアの教育は、独自の実践の様式として小グループの子どもたちによる長期のプロジェクト学習(プロ

ジェクトオーネ)を基本として展開されているが、この方式でレッジョ・エミリアの教育を代表させることもできない。レッジョ・エミリアの教育は「ドキュメンテーション」という独自の実践記録の方法を編み出しているが、この方法でレッジョ・エミリアの教師の活動全体を説明することもできない。レッジョ・エミリアの教育実践は、「アトリエリスタ」と呼ばれる芸術教師と「ペダゴジスタ」と呼ばれる教育学の指導的教師を中心に展開されているが、この二つの特徴的な教師の活躍によってレッジョ・エミリアの教育組織の全体像を語ることもできない。そして、レッジョ・エミリアの教育実践は、「ピアッツァ(広場)」と呼ばれる公共空間と「アトリエ」と呼ばれる表現の空間、およびライト・テーブルを始めとする豊富な教具や素材を活用して遂行されているが、それらの教育環境によってレッジョ・エミリアの教育実践の本質を示すこともできない。さらに、レッジョ・



エミリアの教育は、子どもと教師と親と市民による「学びの共同体」を形成しているが、この理念によってレッジョ・エミリアの教育を概括することもできない。レッジョ・エミリアの教育は、それらの有機的組織の全体であり、子どもと大人の「創造性」の挑戦であり、多様な人々が教育と社会の未来を探り出す「共同体」の実験である。

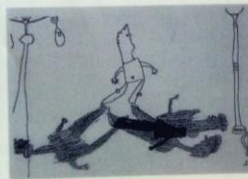
さらに言えば、レッジョ・エミリアの教育は芸術教育として誤解されがちである。レッジョ・エミリアの教育が、ビデオに見るように、創造的な芸術活動を中心に展開されているのは事実だが、しかし、そのアートの活動は芸術教育という狭い枠組みで展開されているのではない。レッジョ・エミリアにおけるアートは、子どもたちが様々な人物や人々と出会い、対話し、表現する技法であり、子どもたちが「100の言葉」によって認識し、表現し、仲間と対話する「知る技法」であり「創造する技法」であり「生きる技法」である。

このビデオ記録は、レッジョ・エミリアの教育の日常を示す、貴重な記録である。私と秋田喜代美さんはグループ現代のカメラマン家塚信さんと共に、2001年の3月にレッジョ・エミリア市を訪問し、いくつもの幼児学校と乳児保育所を観察し、この映像記録を撮影した。このビデオ記録は、レッジョ・エミリア市において私たちが享受した感動や感銘のすべてを伝えているわけではないし、レッジョ・エミリアの優れた教育実践の奥行きを伝えているわけでもない。しかし、どのシーンもこれまで私たちが観覧してきた「教育」の考え方や「子ども」の見方を根本から揺さぶり、私たち



がまだ経験したことがない教育の未来への道筋を鮮やかに指し示している。このビデオ記録が、レッジョ・エミリアの教育をより具体的に知りたく願っている人々、子どもの未来に希望を託している人々、創造性と共同性の教育を渴望している人々に、確かな指針と力強い励ましを与えることを確信している。

最後に、このビデオの撮影に協力して頂いたレッジョ・チルドレンのフランチェスカ・マラストーニさん、フランチェスカ・ダヴァリさん、ティアナ・スクールのヴェア・ヴェッキさん(アトリエリスタ)、ティツィアーナ・フィリピーニさん(ペダゴジスタ)をはじめ、ティアナ幼児学校、ラヴィレッタ幼児学校、アルコバーニ乳児保育所、アレンダ幼児学校の先生と子どもたちと保護者の方々、および貴重な助言と支援を頂いたレッジョ・エミリア市のアントネッラ・スバツジャーリ市長と市教育局のセルジオ・スバツジャーリさんに感謝したい。



さらに、「子どもたちの100の言葉」展を(2001年4月28日-6月24日)開催し、ビデオ撮影の実現に尽力していただいたワタリウム美術館の和多利志津子さんと和多利志津子さんにも謝意の言葉を記したい。このビデオ自体が、多くの人々の創造性と共同性の所産である。

2001年11月 H13
佐藤 学



- ◆ 監修・構成 / 佐藤 学 秋田喜代美
- ◆ 協力 / レッジョ・エミリア市 レッジョ・チルドレン
- ◆ 企画協力 / ワタリウム美術館
- ◆ 制作協力 / グループ現代
- ◆ 制作・発行・販売 / 小学館 (905216) ©Shogakukan 2001
- ◆ デザイン / Creative Sano Japan

〒101-8001 東京都千代田区一ツ橋2-3-1
小学館コミュニケーション編集部 販売 (TEL 03-3230-5749) 編集 (TEL 03-3230-5333)

カラー / 50分 / ステレオ Hi-Fi / スタンドサイズ / コピーガード付